

緑の相談所だより

-78号-

2002. 10. 1発行

編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所 ☎65-5553

講習会のお知らせ

冬に向けての庭木の管理

日時 10月13日(日)
午後1時30分～3時30分

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐藤文男

冬に向けての洋らん管理

日時 10月27日(日)
午後1時30分～3時30分

講師 旭川らん友会
会長 笠原幸三さん

いずれも
定員 50名
無料

花と観葉植物・冬の室内管理

日時 11月10日(日)
午後1時30分～3時30分

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐藤吉光

植物(花)を育てる基礎知識

日時 11月24日(日)
午後1時30分～3時30分

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐野元雄

お申し込み・お問い合わせは 旭川市緑の相談所 ☎65-5553

温室の仲間たち

オクナ・セルラタ *Ochna serrulata* オクナ科

別名 ミッキーマウスノキ(Mickey-mouse plant)
bird's-eye bush



南アフリカ原産
花は黄色、花期は春から夏。萼片は黄緑色から赤色に変わる。
ふくらんだ赤い花床に黒い石果がついて、ミッキーマウスの
顔に似ている。

管理は、日当たりのよい所に置き、温度は最低10～13℃。
排水良好な、肥沃土を好む。年間を通して十分な水やりが必要。

植物名の由来

- ♣ シクラメン・ヨーロッパでは「豚のパン」という。日本では明治17年に、シクラメンの和名として“ブタノマンジュウ”という名が与えられている。しかし、牧野富太郎博士は、明治の末期に新たにその花をカガリビバナ（篝火花）と命名された。
“燃えつきし焰の形シクラメン” 田川 飛旅子 という句がある。
- ♣ サルビア・・・サルビア (salvia) という学名で、正しくはサルビア・スプレンドスというべきである。サルビアはセージのラテン語名で、この植物の仲間には薬用のものが多いのでつけられた名である。サルビア・スプレンドスは“立派な”とか“光輝ある”という意味で、この花の姿からつけられた名である。
和名はヒゴロモソウ (排衣草)
- ♣ コスモス・・・コスモスは学名の属 *Cosmos* をそのまま和名にしたもの。コスモスというのはギリシャ語で“調和”という意味である。宇宙のこともコスモスというがこれも秩序整然とした完全体系をいう。調和したものは美しいので、この美しい花にこの名が与えられたものと思われる。和名はアキザクラ (秋桜)
- ♣ チョウノスケソウ・・・チョウノスケソウという高山にはえる美しい花を開く植物がある。これは、須川長之助という人の名を記念してつけられた名である。この人はロシアの植物学者が来日して植物採集を行った時に助手として従行し、教授が帰国後その時の標本をロシアに送ったが、その標本の中にチョウノスケソウがあったというわけである。
- ♣ ヒトリシズカ・・・ヒトリシズカは“一人静”と書く。早春地上に葉を突き出し、白い槍の穂のような花穂を一本伸ばすヒトリシズカの草の姿が、眉掃を連想させることからマユハゲグサ (眉掃草) とも呼ばれる。ちなみにヒトリシズカの名についてであるが源九郎義経の愛妾静御前の名にちなんで命名されたものといわれるが、一人静かに咲いているという連想を起こさせるもので、いかにも情緒的な美しい響きをもった名である。
- ♣ クマガイソウ・・・クマガイソウは熊谷草で、この花の袋形の唇弁を熊谷直実 (源平の戦い源氏の勝利に最も功績のあった人物の一人) 背負った母衣 (ほろ) にたとえて命名された。
- ♣ アツモリソウ・・・アツモリソウは敦盛草で熊谷草に対立させ平敦盛にちなんで命名された。
(上記は、「植物名の由来」中村浩著より抜粋した。)



チョウノスケソウ



ヒトリシズカ



クマガイソウ



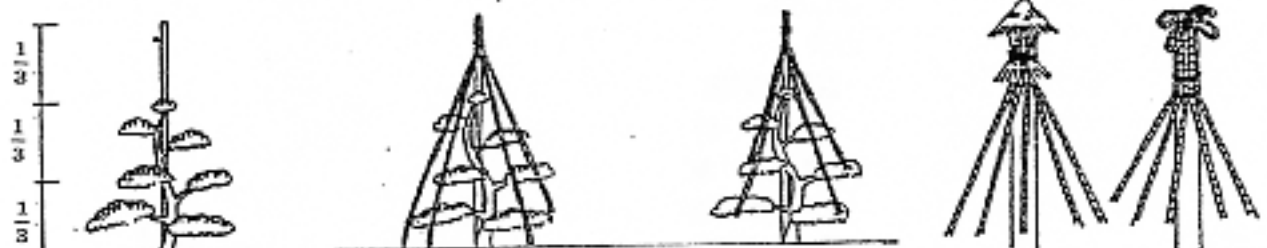
アツモリソウ

冬に向けての庭木の管理 (冬囲い)

1、雪害対策

1) 家庭でもできる雪吊り法 (イチイ、マツ類など)

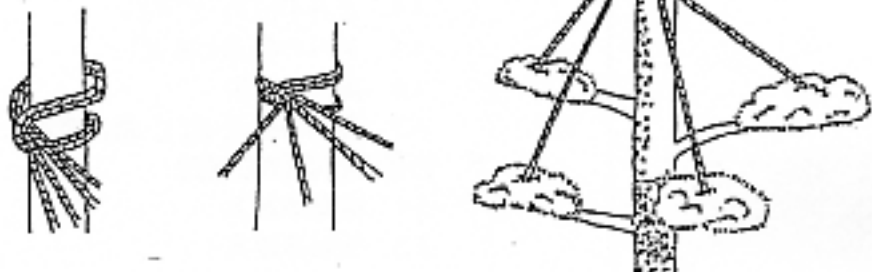
支柱を立てて枝を縄で吊る方法



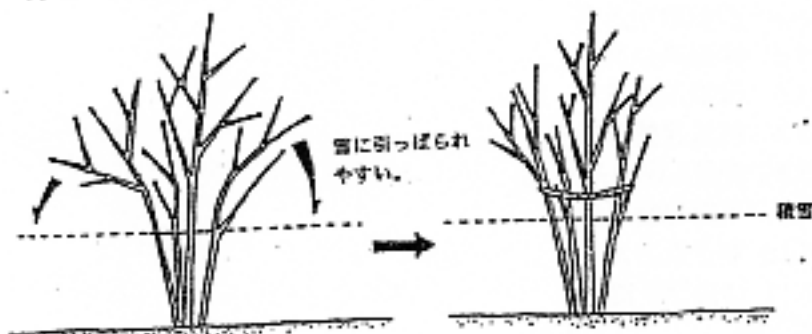
- 丸太の高さは樹高の半分が上に出るくらいにする。
- 縄の本数(枝の数によって決める)と長さを決める。
- 丸太を倒し、縄を丸太の側にしっかりと取りつける。
- 丸太を幹にそわせて垂直に立て、幹に縄でしっかりしぼりつける。
- 縄が木の周囲にひっかからないようにさばく。
- 雪の影響を受けやすい枝を重点にしぼっていく。
- 樹木根はワラぼちをかぶせたり、縄を上に乗せておいて石だたみに張り、締りとする。

2) 幹吊りの方法

- 枝までの長さの紐の端を用意し、半分に折って輪の中を通してよくしめる。縄は1本1本よく引いてしめないで、ゆるんでいることが多い。

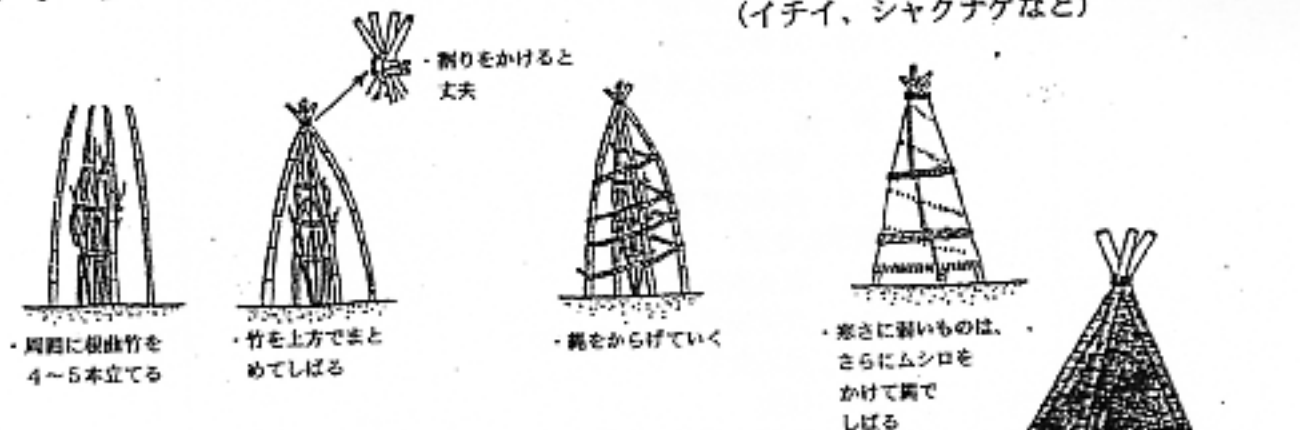


3) 株立ち物の冬囲い



- ライラックやメイゲツカエダのような株立ちものは、積雪の重みで上の枝が折れやすい。
- 1.5mくらいの所で、太い枝を強くしばっておく

2、防寒対策 竹で骨組をしてコモなどで包む (イチイ、シャクナゲなど)



・周囲に根幹竹を4~5本立てる

・竹を上方でまとめてしぼる

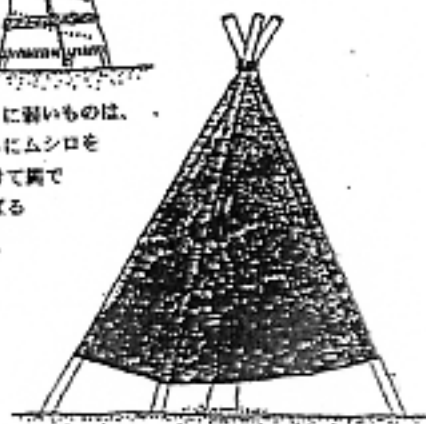
・刺りをかけると丈夫

・縄をからげていく

・寒さに弱いものは、さらにムシロをかけて裏でしぼる

3、寒風対策 (イチイ、ゴヨウマツなど)

常緑針葉樹を移植したときは、寒風、干害を防ぐために、寒冷紗やムシロで囲ってやる



冬に向けての庭仕事

10、11月の園芸作業

○ 草花、鉢花、球根

- ・ゼラニウム、ペチュニア、インパチェンス等 ~ 降霜前に入室、切り戻し、植替え、
- ・クンシラン、シンビジウム、デンドロビウム ~ 初霜前に入室、5~10℃の場所に60日以上置く、肥料不要、蕾が見えたら暖かい部屋に
- ・アザレア ~ 軽い霜がくるまで戸外に、入室後は10℃以下の場所に30日以上
- ・シクラメン ~ 明るい窓辺に、水は常時(球根の上部を濡らさない)10日毎に液肥高温(25℃以上)が苦手
- ・アマリリス ~ 降霜後葉を元から切り、鉢に植えたまま、又は植替えて10℃以下湿った状態で保存、2~3月頃暖かい部屋に
- ・ダリア、カンナ ~ 降霜後掘上げ、球根を分けしないでそのまま表面を軽く乾かした後、湿った材料で包み(埋め)凍結しない程度の低温(10℃以下)で保管
- ・ユリ ~ 2~3年間は掘上げ不要、植替える場合は掘上げ後直ぐに(乾燥させない)
- ・ポタンの移植 ~ 秋、落葉してから行います、春の移植は枯れる心配があります。

○ 庭木、果樹類の越冬準備

- ・越冬病虫害の防除 ~ 果樹のシンクイムシ、ケムシ類、庭木、花木のカイガラムシ、ゲンバムシ、ダニ等の害虫のサナギや幼虫、果樹や庭木のハイボシ病、フクロミ病、モチ病、サビ病等の病菌は落葉の下、樹皮のすき間や割れ目、枯れた雑草の下に潜み春を待っております。落葉等は丁寧に集め土に埋めるか別の場所に堆肥として積んでおきます。落葉後に石灰硫黄合剤10~30倍液を樹の幹や枝に、又地面にも散布しておきますと効果的です。
- ・剪定 ~ 秋の落葉後から春の芽だし直前までが適期ですが、年により厳寒期に切り口が凍結し被害を受けることもありますので、翌年3月まで待つほうが無難です。ただし、カエデ類、果樹のブドウ等は秋のうちに済ませます。春の剪定では切り口からの樹液の沁みだしが止まらず、樹勢の回復が遅れ、枯れこむ場合もあります。
- ・施肥等 ~ 落葉後、根が休んでいる時期に木の根元から少し離れた場所を根は多少切れますが深く耕し、堆肥等を施し土を柔らかくしておきますと樹勢が回復します。この時有機質肥料(油粕等)を施しますと効果的です。化成肥料の場合は来春葉が伸び始める頃が適当ですが、この時は耕やせませんので土の表面にまきます。
- ・バラの越冬 ~ 浅い剪定→葉落とし→石灰硫黄合剤散布→結束→その場で地面に倒す→根部と株の1/3に土をかける。